

②少年期（概ね6～17歳）

◆現状と課題

少年期は、命の尊さや大切さを学びながら、「豊かな心」、「生きる力」を身につける重要な時期であります。子どもの遊びの個人化・室内化は、社会性や運動機能を培う機会を奪い、集団生活への不適応や体力低下にもつながっていると指摘されています。能代市においても、在学少年の生活意識や価値判断は個人の利便性・快適性を重視する都市型生活様式へと変化し、価値観の多様化や規範意識の低下がみられます。

全国的に社会情勢の急激な変化とグローバル化によって少年を取り巻く社会的・教育的環境は著しく変化し、低年齢の少年による犯罪や非行は増加傾向にあり、問題行動も悪質化・陰湿化しています。

また、子どもの朝食欠食や偏った栄養摂取など、食生活に起因する様々な健康問題も生じてきており、家族と一緒に食卓を囲み、子どもと語り合うことを通じて家族のふれあいや豊かな心を育むという、基本的な家庭生活のあり方が求められています。

このような中で、少年期の人間形成において心身共に健全な育成を図るために、生活体験や自然体験、スポーツ、地域のボランティア活動、異年齢交流、世代間交流等の事業を充実するとともに、家庭・学校・地域のなお一層の連携が必要です。

重 点 目 標	施 策 の 方 向 性
1. 豊かな感性、社会性、道徳性の基礎を培う機会の充実を図る。	豊かな感性や想像力等を育てる本の読み聞かせの機会の提供に努める。
	体験の場の拡充に努める。（動・植物とのふれあい体験、昔遊び等）
2. 地域の教育力を活かした子どもの居場所の充実を図る。	生活体験・勤労体験・ものづくり等を教える地域の先生の育成に努める。
	子どもの居場所づくりの充実に努める。
	学校・PTA等との連携による家庭教育を考える機会の拡充に努める。
3. 異世代・異年齢との交流の場の充実に努める。	放課後や週末等における子どもの活動支援や高齢者などと異世代とのふれあい交流支援などの促進に努める。
4. 地域行事やボランティア活動へ関わる機会の拡大と参加促進を図る。	ボランティア育成講座内容の充実に努める。
	地域の活動の核となるリーダーの養成・確保に努める。